

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

第18回伊賀市教育研究集会

「今、学校・園が部落問題にどうとりくむのか？」

【講師】 大阪教育大学 名誉教授 森 実先生

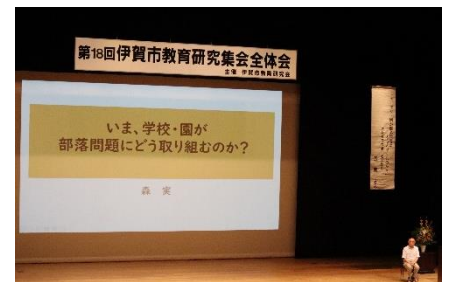
8月2日（水）、伊賀市文化会館にて第18回伊賀市教育研究集会が開催されました。今年度は新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことに伴い、会員全員が伊賀市文化会館に集まりました。講師に大阪教育大学の名誉教授森実先生をお迎えし、「今、学校・園が部落問題にどうとりくむのか？」と題して、ご講演いただきました。

初めに、全国部落差別実態調査（2019）から全国で2.2%が「部落差別は不当な差別ではない。」と回答していることから、この数値が今後どう左右するかは学校にかかっているという話がありました。また、個別の人権課題についても教育が大きな位置を占めているという話から、改めてわたしたち教職員が差別をなくす主体者として一人ひとりが責任を自覚し、取り組んでいく必要があることを確認できました。

次に、現代社会における差別事象と差別意識の特徴について話をいただきました。最近の差別の特徴として「意図的・攻撃的差別」「無関心差別」「実態的差別」があり、特に「無関心差別」について「わたしは差別しないから関係ない」という意識が意図しない差別を引き起こしたり、利害関係があった時に差別する側に回り込んでしまったりするという実態が最近の差別事象からも明らかであることが分かりました。

最後に、わたしたち教職員ができることとして、森先生からいくつかの具体的な学習活動とそのポイントについてご教授いただきました。人権学習のキーワードは、「当事者、身近、体験・経験、共有、自分の考え」であり、どれかが欠けていたとしても子どもたちの実態に合わせて考えていくこと、具体的なはたらきかけ（自己を見つめる、なかまと語り合う、なかまとつながるはたらきかけ）を行っていくことが大切であることを学びました。

今回の講演から自分自身の人権感覚、人権学習の取り組みを振り返るとともに、差別の現実から学ぶこと、くらしの事実をとらえ、差別を許さない子ども・なかま集団をつくっていくことに引き続き、取り組んでいきましょう。



アンケートより【一部抜粋】

- ・学校で人権学習を重ねていくことは、「自分のマジョリティ性を振り返り、気づかないうちに誰かを傷つけている自分に気づいて自分を変えていくこと」、「自分も周りも大事にできる生き方につなげていくこと」、「本当にしんどい時に相談できるなかまをつくっていくこと」など我々は本当に大切な役割を担っていることを再確認できました。
- ・最近の差別事象の話から、まだまだ差別は厳しいものがあると感じました。その中で無意識の差別については、子どもに対してだけでなく、まずは自分自身はどうなのか振り返ることが大切であると思いました。また、これまでも「何かあった時に相談できる関係がつけられているか」ということを大切に取組んできたが、これからも大切にしていきたいです。